

アジアポートフェスティバル in Kanmon
関門海峡花火大会
 kanmon kaikyo Firework Festival

本年度開催中止について

概要

令和2(2020)年8月13日に開催を予定しておりました「第36回関門海峡花火大会」につきましては、下記の理由により中止の決定を致しました。実行委員会と致しましては、下関市や下関警察署、門司の海峡花火大会実行委員会等と万全の安全対策等を検討するなどして、何とか実施する方向で協議して参りましたが、全国に「緊急事態宣言」が出され、山口県内の累計感染者が32例(4月28日現在)となる中、大変残念ですが関門海峡花火大会の開催は困難であると判断致しました。

※事前の中止決定は大会史上初…平成6(1994)年第10回大会は強風により中止
 ※門司会場については4月27日に、門司側実行委員会より中止の旨発表済。

予定されていた開催内容

大会名称	第36回関門海峡花火大会 ※関門共催では第33回
主催	海峡花火実行委員会(下関会場)
事務局	一般財団法人下関21世紀協会
開催予定日	令和2年8月13日(木)
開催予定会場 (下関側)	あるかぼーと会場、海峡ゆめタワー前会場 カモンワーフ会場、唐戸市場前会場
打上げ時間	午後7時50分～午後8時40分
花火の内容	打上花火、水中花火、尺玉連発、1尺5寸玉、フェニックス 等 ※関門合計 15,000発(両岸各7,500発)
打上場所	台船2台(あるかぼーと会場前、岬之町埠頭前)、突堤
動員見込数	下関側45万人 門司側45万人 ※関門合計90万人 (一日の人出としては、全国の花火大会で第2位)

中止の背景

- 新型コロナウイルス感染拡大
- 緊急事態宣言の発令(4月7日に福岡を含めた全国7都府県に、同16日に全国を対象に。)に伴う外出自粛の要請、施設利用の制限。

中止の理由

- 大会開催により、来場時の移動及び会場において過密な状況がつくられることによって感染リスクが生じること。
- 準備過程において必要な各種会議会合、打合せ等において過密な状況がつくられることによって感染リスクが生じること。
- 無観客での開催を検討するも、上記同様の理由において困難と判断。

開催延期が困難な理由

本大会は昭和60(1985)年、下記の目的をもって始まった。

- お盆の13日、ふるさと下関に帰郷した人々が、誇りとする海峡の価値を見つめ、その想いを地域で共有する。
- お盆の13日は海峡に眠る魂を鎮める“鎮魂”的”の日である。

上記により、関門海峡花火大会の要件は、毎年8月13日、関門海峡に臨む場所で、大勢の市民と時間と空間を共有することにあり、いずれかを除外することはその本意ではないこと。

大会の歴史と概要

昭和60(1985)年、財団法人下関21世紀協会(現在は一般財団法人)によって始められた。昭和63(1988)年からは『アジアポートフェスティバル in KANMON 海峡花火大会』として、北九州市の門司区側からも花火が打ち上げられるようになり、本年は、下関では36回、両市合同では33回目の開催の年であった。海を越え、県境を隔てて同一名称で開催される世界唯一の花火大会である。※一日の人出としては、全国の花火大会で第2位

実行委員会組織

昭和63(1988)年の合同開催以来、関門両市それぞれの街づくり団体を中心とした下関会場、門司会場、双方の実行委員会が下記三つの事項のみを取り決め実施。

- ①毎年8月13日(午後7時50分～午後8時40分)に実施
- ②打ち上げ数は両岸各7,500発(合計15,000発)
- ③共通の名称、大会ロゴを使用

双方実行委員会では事前事後に数回の会合をもつことで、問題点や今後の改善点などの諸課題を共有している。

【実行委員会事務局】

下関会場…一般財団法人下関21世紀協会 083-223-2001
 門司会場…NPO法人門司まちづくり21世紀の会 093-331-8781

(一財)下関21世紀協会について

昭和63(1988)年、下関の活性化と発展を願い、地元住民・企業・行政等が出資し設立。行動するシンクタンクとして「小さな世界都市下関」を目指し、『下関ウォーターフロント開発』や『沖合人工島』など各種の提言や事業を実践。現在『関門海峡花火大会』をはじめ、『海峡花通り～下関花いっぱい計画』や『しものせき誇り100選』、『下関文化サロン』などを通じて、海峡都市下関の醸成に資する各種活動を展開。

一般財団法人下関21世紀協会 <http://shimonoseki21c.jp>



次年度以降の対応

今後始まるあるかぼーと地区におけるホテル建設工事に伴い、来年度以降はメイン会場であるあるかぼーとを現在のように使用することが困難なことから、関係各所の協力を得ながら、現行どおり、8月13日、海峡を臨む場所で、より市民をはじめ来場者の期待に応えられる内容とすべく協議中。

代替事業の実施

【ふるさと下関への誇りの創出と共有】という本事業の主旨を鑑み、花火大会が中止となった本年、我々が為すべき方策を検討した結果、以下の事業を予定。



しものせき STAY HOME プロジェクト

みんなでひとり キャンペーン

- 自宅でひとりでやってみた
- メッセージ広告配布
- 下関誇り100選
- 投稿プラットフォーム
- お家でフォトコン
- お家で海峡花火
- お家で花いっぱい

主催者コメント

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点により、今年で36回目となる関門海峡花火大会の中止を決断いたしました。今まで大勢の人々の尽力で継続してきた大会がこのような形で途切れること、また、今年度の下関市のにぎわい事業が次々に無くなってしまうことは残念でなりません。しかし、今日の現状においても、思考停止に陥ることなく、将来の下関市に光を灯す不断の作業を行っていくことは必要です。我々はこの困難な状況を、すべての世代の市民一人ひとりが自身と地域を見つめなおし、未来へのビジョンを推考する一つの契機とすべく、新たな活動を進めています。

大会長 井上 博臣

(一般財団法人下関21世紀協会 理事長)

この度、誠に残念ではありますが、第36回関門海峡花火大会は中止することを決断いたしました。来場者の皆さまの安全確保を担保できないというのが一番の理由です。これまで門司側の花火大会実行委員会や警察、行政と開催に向け、会議を行ってきましたが、断念せざるを得ないかたちとなりました。しかし、来年に向けて気持ちを切り替え、今年は今年で、何かできることを考え、立ち止まらずに模索していきたいと思います。来年からは今後始まるホテル建設に伴い、メイン会場であるあるかぼーとを使用することができません。大きく様変わりすることとなる関門海峡花火大会にどうぞご期待ください。

実行委員長 中野秀行

(一般財団法人下関21世紀協会 専務理事)